

香川湧慈の独り言（ある後輩の後継者から相談を受けて、送った文）

「本業」そして自分の足元が、最も厳しい現実である。  
その最も厳しい現実から出発しないと、本物には成れない。  
人間、一生のうちにやれる事は、たかが知れている。  
大事なことは、自らに与えられた仕事を天職として、その仕事を通じて、  
如何に多くの人を「しあわせ」にするかである。  
天職は探すものと考えると、今の足場を中々受け入れられない人も多いと思う。  
ちょっとした困難に出くわすと「こんな仕事は天職ではない」と考えてしまう。  
天職がどこかで自分を待っていてくれるという錯覚。  
天職は、生涯を通じて、自らが作り上げて行くもの。  
その為には「安易に自分のしたい事をする」といった甘い考えは捨てること。  
大事なことは「自分に与えられた仕事を好きになる努力」だ。  
仕事なんて無限と言えるほどある。  
その中から、自分の一番気に入る仕事を探すといった考え方は、空想に等しい。  
そんな空想に惑わされることなく、今自分に与えられた仕事を全力で「好き」  
になること。それこそが、自分が「しあわせ」を感じられる最大の道である。  
結婚も同じ。自分の一番好きな人と結婚したい。と誰もが考える。  
しかし、地球上にいる全ての女性の中で、目の前のこの人が、  
自分に相応しいかどうかなど、誰にも永遠に分からない。  
最愛の人を見つけることなど、空想である。  
第一、そんな事は物理的に不可能である。地球人口約60億人の半分以上が女性。  
その30億人に会うことは不可能ということ。  
大事なことは、自分が最初好きで結婚した人を“最愛の人”にする努力。  
言葉を変えれば、ベターハーフを見つけて、一生掛けて“最愛の人”にする  
ことが、しあわせの道。それが魂が結び付く「結魂」に発展するもの。  
それでは、自分の仕事を天職にし、結婚した相手を“最愛の人”にする為には、  
どうすればいいのか。  
答えは簡単である。「志」を持つことである。  
人間いつでも、何でも思うようになると考えるのは、我がまま。  
時には食べる為に、自ら希望しない仕事をしなければならない事もある。  
自ら希望した仕事をしていても、思いに反して、続けられないこともある。  
そんな全てを一つの運命として、受け入れると共に「そんな事は、あまり関係  
無い。自分はどんな仕事をして、人を喜ばす。」との志さえあれば、  
やがて、全ての仕事を好きになるはずである。  
女も同じと思うけどなあ。（女性の人には、男も同じと思いますよ。）